

## 執筆者プロフィール

編集・執筆  
(五十音順)

### 奥本 素子



北海道大学教育イノベーション機構  
科学技術コミュニケーションユニット (CoSTEP)

博士(学術)。専門は教育工学、科学教育。2024年度よりCoSTEP部門長。博物館やサイエンスコミュニケーションをテーマに、日常の中から学ぶインフォーマルラーニングを研究しています。CoSTEPでは、アートや社会、日常といった実体のないコンセプトの力を借りて、科学と社会との関係を紡ぐ実践を行っています。本書には20年分のサイエンスコミュニケーションの歩みを、寄り道や回り道の部分も含めて書いています。自分なりの歩き方で辿ってみてください。

担当: 序章/第1章-01、コラム/第2章/第3章-01、02、コラム/第5章/終章-01、03

### 種村 剛



北海道大学教育イノベーション機構  
リカレント教育ユニット

特任教授・CoSTEPフェロー。専門は社会学・社会情報学。2014年度にCoSTEPの選科Aを受講、2015年度よりCoSTEPのスタッフ、2022年度に北海道大学のリカレント教育を担当する部署に異動して今に至ります。CoSTEPでは、対話の場の創造実習を担当して、受講生とサイエンスカフェを企画したり、演劇を用いたサイエンスコミュニケーションイベントを行なったりしました。これからも、社会人向けの、演劇を用いた課題解決型学習のプログラム作りを展開していきたいと考えています。

担当: 第1章-02/第3章-03/第4章-01/終章-02、03

### 池田 貴子



北海道大学教育イノベーション機構  
科学技術コミュニケーションユニット (CoSTEP)

博士(獣医学)、修士(農学)。専門は、都市ギツネの生態学と、彼らが媒介する人獣共通感染症の疫学。近年は、札幌市のキツネやヒグマ問題など、都市に生息する野生動物と人との軋轢や、感染症、獣害をめぐるリスクコミュニケーションに挑戦中。学生時代から分野横断的な研究に取り組むなかで、研究と社会の断絶や、研究分野間のミスコミュニケーションに悩んできました。その迷いや試行錯誤の積み重ねが、本書の根底にあります。読者の皆さんが、自分なりの問いを抱えながら社会と関わっていくための一歩につながればうれしいです。

担当: 第4章-02、コラム/終章-03

執筆  
(五十音順)

## 川本 思心

北海道大学大学院理学研究院物理学部門



科学技術と社会の関係に関心をもちつつ、北海道大学にて発生生物学を専攻し博士(理学)を取得。東京工業大学での研究員・特任助教や北海道大学 CoSTEPでの講師を経て現職。専門分野は科学技術コミュニケーションおよび科学技術社会論(STS)。特にデュアルユース問題や、多様な専門家間のコミュニケーションをテーマに、先端科学技術の事例だけではなく、歴史的事例も研究対象としています。本書が読者の皆様それぞれにとっての科学技術コミュニケーション実践／研究を見つけるきっかけになれば幸いです。

担当:第4章-03/終章-03

## 小林 良彦

大分大学教育学部理数教育講座



新潟大学自然科学研究科博士後期課程修了。博士(理学)。九州大学基幹教育院次世代型大学教育開発センター・特任助教、北海道大学科学技術コミュニケーション教育研究部門(CoSTEP)・特任助教を経て大分大学教育学部・講師(現職)。専門は原子核物理学、物理教育、サイエンスコミュニケーション。大学院生の頃よりサイエンスカフェなどのサイエンスコミュニケーション活動に取り組んでいます。CoSTEP所属時は、サイエンスライティングの教育・実践を担当し、研究者へのインタビュー記事などの執筆および執筆指導を行っていました。サイエンスカフェやサイエンスコミュニケーターに関する研究などに取り組んでいます。

担当:第1章-03/付録原案/終章-03

## 原 健一

金沢工業大学基礎教育部修学基礎教育課程



北海道大学大学院文学研究科博士後期課程を2020年3月に修了し、博士(文学)を取得しました。専門はフランス哲学で、特にバルクソンの知覚論・記憶論を研究しています。2020年4月より北海道大学 CoSTEP 博士研究員、2022年4月から同助教としてサイエンスコミュニケーションの教育・実践・研究に従事し、2023年4月より金沢工業大学講師として科学技術者倫理の教育を主に担当しています。最近になって科学技術の哲学・倫理学やサイエンスコミュニケーションについての研究成果も少しずつですが出せるようになってきました。今後の自分がどういっず哲学者になっていくのか楽しみです！

担当:第4章-04/終章-03